

八竹庵で展示される作家達。

ADAM ROUHANA(アダム・ルハナ)

Instagram:

<https://www.instagram.com/adam.rouhana?igsh=c2FxZ2tpdHZqeGlx>

「The Logic of Truth」

キュレーター: タウス・ダマニ

セノグラファー: Spinning Plates

 17 2025.04.12 — 05.11

 八竹庵(旧川崎家住宅)

 10:00-19:00(無休)

 無料

土田ヒロミ

Instagram:

<https://www.instagram.com/tsuchidagram?igsh=OWV0MjB1eTZOZGQy>

「リトル・ボーイ」

キュレーター: 仲西佑介(KYOTOGRAPHIE)

セノグラファー: Spinning Plates

 17 2025.04.12 — 05.11

 蔵 八竹庵(旧川崎家住宅)

 10:00-19:00(無休)

 無料

ADAM ROUHANA(アダム・ルハナ)

1991年アメリカマサチューセッツ州ボストン生まれ。エルサレムとロンドンを拠点に活動するパレスチナ系アメリカ人のアーティスト兼写真家。オックスフォード大学で修士号を取得。彼の作品は『ニューヨーク・タイムズ』『Aperture』『Dazed』などに掲載されている。ルハナの作品は、彼の主観的なレンズを通して、パレスチナが持つあらゆるコンテキストの中にあるオリエンタリズムを脱

構築している。アメリカで育った西洋人として、アラブ人として、そしてカメラを構えるパレスチナ人としての自分の立場を問うている。

ルハナの作品は過去のテーマを内包しながら新たな物語を語ることで、パレスチナの同時代的な立ち位置を創出し、能動的な自己決定の倫理を体現するパレスチナの人びとの生活を表現として昇華している。ルハナは多くの場合、祖母が営む果樹園の風景や、パレスチナで過ごした幼少時の記憶にある家庭の暮らしからインスピレーションを受け作品を制作している。



© Adam Rouhana

KYOTO
GRAPHIE
international photography festival

ADAM
ROUHANA
アダム・ルハナ

ADAM ROUHANA

アダム・ルハナ

The Logic of Truth

1991年アメリカマサチューセッツ州ボストン生まれ。エルサレムとロンドンを拠点に活動するパレスチナ系アメリカ人のアーティスト兼写真家。オックスフォード大学で修士号を取得。彼の作品は『ニューヨーク・タイムズ』『Aperture』『Dazed』などに掲載されている。ルハナの作品は、彼の主観的なレンズを通して、パレスチナが持つあらゆるコンテクストの中にあるオリエンタリズムを脱構築している。アメリカで育った西洋人として、アラブ人として、そしてカメラを構えるパレスチナ人としての自分の立場を問うている。

KYOTOGRAPHIE 2025では、アダム・ルハナが、語られることはあっても正しく目にする機会がほとんどないパレスチナの暮らしを隅々まで撮影。写真を軸とした作品とサウンドによるインスタレーションは、日常の慣習、市場や自然の風景に来場者を誘い、日常の中にある美と力を浮かび上がらせ、祖国での自由を求める人々の権利を肯定する。

📍八竹庵（旧川崎家住宅）

ADAM ROUHANA

The Logic of Truth

Adam Rouhana (b. 1991, Boston, MA) is a Palestinian-American artist and photographer based between Jerusalem and London. Rouhana's photography deconstructs orientalism through his subjective lens within the broader context of Palestine. Through his investigations, he questions his positionality as a Palestinian behind the camera, both as a Westerner, having grown up in America, and as an Arab. Rouhana received his masters degree from the University of Oxford. His work has appeared in *The New York Times*, *Aperture*, and *Dazed*.

At KYOTOGRAPHIE 2025, Adam Rouhana presents *The Logic of Truth*, an exhibition showing the full prism of life in Palestine, a place so often talked about but rarely truly seen. Image-based media alongside sonic installations immerse visitors in daily rituals, markets, and natural landscapes, revealing beauty and power in the ordinary and affirming a people's right to freedom in their homeland.



Hachiku-an (Former Kawasaki Residence)

土田ヒロミ

1939年福井県生まれ。福井大学工学部卒業後、ポーラ化粧品本舗に入社。会社員の傍ら、東京総合写真専門学校で学び写真家としての活動を開始。1971年退社後写真家の道を選び、日本人の民族性を追及した『俗神』(1976年)を発表。「日本人としての自分自身の座標を確かめておきたかった」(『俗神』より)というこのシリーズは、福井で育ち、次第に都会へと根付いていく自己の確認、都市化が進むなかで失われていくアイデンティティの再確認がなされており、1970年代

にニューヨーク近代美術館のコレクションに入るなど早くから国内外で評価を得る。その後、「俗神」と同じテーマでありながらも、視点が「原点から到達点という対局をなしている「砂を数える」(1975-1990)で、日本人の「群衆の人」的文化に焦点をあて、過密化した都市のなかへ順応していく民衆の姿を写し出した。その後発表した主なシリーズに、日本経済のバブルの享楽的なパーティを取り材した「パーティ」(1978-90)、日本の基幹産業の生産現場を記録した「産業考古学」(1991-2004)。生産の対の風景として国道沿いの消費の風景を記録した「Fake Scape」(1995-2000)、デジタルカラーでバブル崩壊後の群衆にカメラを向けた「新・砂を数える」(1996-2002年)、日本の祭りを記号的に捉えた「続・俗神(祭り)」(1989-2007)など、対象によって全く異なるアプローチを貫いているのは「ニッポンの考察」という主軸である。

また、伊奈信男賞を受賞したシリーズ「ヒロシマ」は、『原爆の子』(長田新編、岩波書店)に作文を寄せた被爆体験者の33年後のポートレイト「ヒロシマ1945-1979」(1979年)、爆心地の被爆の痕跡を残す風景の定点撮影「ヒロシマ・モニュメント」(1979-)、広島平和記念資料館におさめられている遺品などを撮影した「ヒロシマ・コレクション」(1981-)の三部作構成であり、当事者ではなく、現代のなかで風化していく戦争意識を提起し高い評価を受けている。

「ヒロシマ三部作」同様に長期継続するドキュメントとして、2011年の東日本大震災に伴う原発事故による被曝状況の継続記録「フクシマ2011-2017」は、十年毎に風景を定点撮影を継続する「ヒロシマ モニュメント」と同質思考の作業。広島を相対化するため1999年から2019年までベルリン、2005年からエルサレムの取材を開始。これら海外への視点の拡張は、二十世紀の悲劇を象徴する三都市、核による破壊された広島、冷戦構造の下で国家が二分に破壊されたベルリン、そして、現在21世紀に至るまで宗教、文化の衝突が破壊を生んでいるエルサレム、この悲劇の三都市ヒロシマ、ベルリン、イスラエルを繋ぐことで現代を捉えようとする構想で進行中。また、私的な記録として顔のセルフポートレイトを1986年から現在まで毎日一枚撮影の継続作業「Aging」で、時間と「Memontomori」という壮大なテーマに挑戦している。

The works will be revealed
at the venue

作品は会場にて発表



HIROMI TSUCHIDA
土田ヒロミ ほか and others

HIROMI TSUCHIDA

and others

Little Boy

What happened above and below the atomic cloud concerns all of humanity. Eighty years after that day, when nature's laws were violated, we reflect — what does it mean to us now?

📍 Hachiku-an (Former Kawasaki Residence)

HIROMI TSUCHIDA

土田ヒロミ ほか and others

リトル・ボーイ

雲の上と下で起きたことは、共に人類に関わることであり、自然の摂理に反すること。
あの日から80年の年月が経ち、私たちは今何を想うのか。

📍八竹庵（旧川崎家住宅）